

中期戦略計画

RI第2820地区

水戸ロータリークラブ

平成28年 12月

水戸RC中期戦略計画

RI第2820地区 水戸 RC

1. 会員満足度アンケートの結果分

- ・全体的には、ほとんどの会員がクラブに満足している。
- ・現状に満足している人は在籍年数の長い会員である。
- ・水戸RCの参加度合いで「わからない」を選択した比率は在籍年数3年以内が最も高い。
- ・在籍年数で見ると、11～20年の会員がクラブに積極的に参加している。
- ・在籍年数3年以内の不参加率が高い。次に21年以上。
- ・会合をよりよくする為の方策で最も求められているのは「より良い講演者」「親睦」「活躍の場」「地域との交流」である。

2. クラブの現状はどうか

クラブの長所と短所を挙げ、次に地域社会に存在する機会と課題を挙げてみましょう。

クラブの長所

クラブの短所

<ul style="list-style-type: none"> ・会員数が多く、異業種の人との交流が多く持てる ・歴史と伝統があり、風格のある、誇れるクラブ ・人物的に素晴らしい人が多い、会員のレベルが高い ・アットホームな雰囲気ですとまりのあるクラブ ・奉仕活動のレベルが高い ・自分自身への勉強になる ・会員間の親睦が活発 ・転勤者を受け入れてくれるクラブ ・リーディングクラブとしての自覚、出向者の供給 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員数が多いためまとまりに欠ける ・出席率の低さ ・情報の共有がなされていない ・例会時の席の固定、会話相手の固定化 ・クラブへの帰属意識が低い ・情報発信力の低さ ・例会のマンネリ化 ・例会時間の見直し ・堅苦しい、やさしさが無い ・新入会員や長期欠席者へのサポートがない ・委員会の構成メンバーへの工夫がない ・サロンとしての会員交流の場がない
--	--

地域社会に存在する機会（例：新しい会社やビジネス、増えている人口層など）

地域社会に存在する課題（例：経済の悪化、競合する奉仕団体など）

<ul style="list-style-type: none"> ・歴史と伝統のある土地、史跡、観光資源がある ・緑が多く、気候も温暖で、生活しやすい ・「水戸」というネームバリューがある ・県庁所在地なので、情報や文化的施設がある ・平坦な土地、平均的な人口、豊かな土地 ・公園が多く、まちがきれい ・東京が近く、茨城空港や港までのアクセスが良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・PR不足、情報発信力の弱さ ・県庁所在地なのに人口が少ない ・駅周辺を含め、経済が停滞している ・強みを生かした街づくりができていない（歴史や都市型公園、美術館など） ・集客力が弱い ・祭りがいまいち ・うまいものが少ない ・飲食代が高い ・千波湖が汚れている
---	---

3. クラブは何を目指しているのか

1, 2の結果を踏まえ、クラブが目指すべき、3年後の未来像の特徴を5~10挙げてください。

1. 変えてはならない事、変えていくべき事を明確にし、バランスのとれた水戸RCを目指す。
2. 地域への貢献を積極的に行い、地域における存在感を増す。(奉仕)
3. 継続と新たな奉仕活動のバランスをとり、会員参加型の奉仕活動を増す。(奉仕)
4. 奉仕における他団体との連携(奉仕・外部との連携)
5. RI第2820地区のリーディングクラブとしての自覚を再度確認する。(外部との連携)
6. 入会年数の低い会員へのロータリー教育を行う。(研修)
7. 自己研修に繋がる機会を増やす。(研修)
8. 新入会員の水戸RCへの溶け込みをフォローする。(研修・親睦)
9. 会員間・世代間・入会年数間の人間的交流を深化させる。(親睦)

クラブのビジョン(目指すべき将来像)をまとめてください(クラブの独自性や特徴を表した表現を入れる。例:「地域において最も国際感覚のある奉仕団体となること」「青少年の支援に地域で最も力を注いでいる奉仕団体となること」など)。プロジェクトチームがビジョンを作成した後、クラブ全員からの支持を得ることも重要です。

テーマ「進化する重厚なリーディングクラブ水戸を目指して」

私たち水戸RCは66年の歴史を持っています。近年のRIの風潮に流されることなく、古き良きロータリーの伝統を持ちつつ、地区内のリーディングクラブとして変革のトップランナーであり続ける誇りを持たなければなりません。

そのような誇りを持ち続けるために何が必要か、私たちは複数回のアンケートを会員から取ることで、4本の柱を導き出しました。

1. 奉仕: より輝く故郷の実現に少しでも寄与できる地域への奉仕
2. 連携: より重要な役割を果たすための外部との連携
3. 研修: 素晴らしきロータリアン、素晴らしき人生につなげるための研修
4. 親睦: 会員間の人的つながりを深化させる親睦

私たちは、カジュアルなロータリーを否定します。

進化する重厚な水戸RCを目指します。

そしてRI第2820地区のリーディングクラブとしての誇りを持ち続けます。

3年後の数値目標: クラブ会員数を130人以上

出席率を85パーセント以上

4. どのようにビジョンを実現していくか

- 以下の各点を考慮に入れながら、このビジョンの実現に向けたクラブの具体的優先事項を定める。
 - － 会員・クラブの長所と短所
 - － ロータリー戦略計画の目標と地区目標、および地域別会員増強計画の目標
 - － 国際ロータリーとロータリー財団のプログラムと使命
 - － 地域社会に存在する機会と課題
 - － 会員の意見
 - － 3年で達成が可能かどうか
- チームで話し合い、クラブにとって最も重要な具体的優先事項を選定する。優先事項は、ビジョン実現に向けた取り組みで最も大きな成果が期待できるものとする。
- それぞれの優先事項を支える年次目標を定める。
- 年次目標に向けた実行項目(具体的に)、達成期日、必要なリソース(目的を達するために役立つ、あるいは必要となる要素のこと)、担当委員会等を決める(下表参照)。
- 目標の設定と進捗確認を行うために、ロータリークラブ・セントラルを活用する。

具体的優先事項 1: 地域への奉仕

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担当委員会
奉仕における不変と変化	各奉仕委員会の継続事業の見直し	2017年6月	過去の検証	各奉仕委員会
奉仕における不変と変化	新規事業の検討と実施	2019年6月	地域のニーズ把握 会員のニーズ把握	各奉仕委員会

具体的優先事項 2 : 外部との連携

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担当委員会
全国ローターアクト研修会への対応	2018年にRI第2820地区で開催される全国ローターアクト研修会の開催	2018年3月	地区と水戸RACと水戸RCの連携	ローターアクト委員会
地区への協力	人材の提供	2017年6月	人材の掘り起こし 出向会員への協力	理事会 対応委員会

具体的優先事項 3 : 研修

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担当委員会
新会員への対応	入会后数カ月のフォロー	2018年6月	ロータリー情報委員会との連携 推薦者との連携	サポート委員会
在籍年数3年内の会員への対応	会員へのロータリー教育	2018年6月	ロータリー情報委員会との連携	ロータリー情報委員会 サポート委員会
卓話の再検討	例会時の卓話の充実	2018年6月	会員のニーズ把握	プログラム委員会

具体的優先事項 4：親睦

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担当委員会
親睦の効果的実施の検討	既存の実施内容の見直し	2017年6月	現状の把握	親睦委員会 ロータリー情報委員会
親睦の効果的実施の検討	新たな親睦の在り方の検討と実施	2018年6月	会員ニーズの把握	親睦委員会 サポート委員会
例会の見直し	新たな例会の在り方	2018年6月	会員ニーズの把握	プログラム委員会 会場委員会

具体的優先事項 5：組織改革

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担当委員会
新たな委員会の設置	サポート委員会 中期計画特別委員会	2017年3月	委員会機能の定義 構成会員の見直し	理事会
理事構成の見直し	新たな理事対象者を増やす	2017年3月	会員の理解	理事会

5. 目標に向けての進捗はどうか

- プロジェクトチームが、目標に向けた進捗状況を定期的に確認し、必要に応じて計画への修正を提案する。
- 毎年、プロジェクトチームがクラブ会員とともに戦略計画（ビジョン、具体的優先事項など）を見直し、修正の必要があるかどうかを確認する。
- クラブの決定が戦略計画に沿ったものとなるよう確認し、決定にあたってはプロジェクトチームの意見を参考にする。
- 計画の実現に必要なリソースを十分に配分する。
- 3年ごとに戦略計画立案プロセスを繰り返し、新しい計画を立てるか、現行の計画を維持する。

戦略計画の進捗を確認するためにクラブが取るステップをご記入ください。これには、確認の期日や周期も含まれます（例：毎月の定例理事会での報告、クラブ協議会での報告、年次評価など）。

- 中期計画特別委員会が理事会の委託を受けて各委員会やプロジェクトの進捗、予算の確認を行うものとする。

中期計画特別委員会は構成として、委員長に元会長、副委員長に1名の歴代幹事、その他数名の委員からなる。

ステップ

1. 当該年度前年、予定者の段階で、各委員会から当該年度の委員会予定を確認する。
2. 進捗の途中確認は4ヶ月後、8ヶ月後に行う。（特に会員数、出席率には留意）
3. 最終確認は当該年度の6月に行う。
4. 理事会が責任を持つ項目に対しては、会長・幹事に進捗の確認を行う。
5. 途中で修正の必要がある場合、担当委員長及び会長、幹事、理事会に勧告を行う。
6. クラブ協議会にて、中途の報告を行う。
7. 翌年の特別委員会メンバーに詳しい引き継ぎを行う。
8. 年度の最終、理事会に対し、報告の義務を負う。
9. 2018-19年度に、次の3年に向けた戦略計画立案を行う。

中期計画を受けて高原年度中（本年度中）に行う事

1. フォローアップ委員会を来期から設置できるようにクラブ細則変更
 - ・委員長、副委員長は4年以上の若手を起用する。
2. 中期計画特別委員会の今期中設置
 - ・次年度から本格稼働させるため、今期は暫定的に特別委員長を高原会長、副委員長を成田幹事と置き、次年度からはそのまま直前会長、直前幹事が委員長、副委員長となる。
委員は特別委員長が指名し理事会が承認する。（委員は兼務可能）
 - ・中期計画の効果的運用の為、方針を立てる。
 - ・各委員会の検討課題をチェックし理事会へ上程する。
3. 各奉仕委員会で継続事業の見直しを行う。（次年度委員長と協議のうえ）
4. 親睦の効果的な実施の為の施策を研究する。
 - ・親睦委員会及びロータリー情報委員会
5. 例会内容の見直し
 - ・プログラム委員会、会場委員会、幹事、SAA
6. 卓話を効果的に実施するための研究
 - ・プログラム委員会
7. 入会1年経過後の支店長会員を奉仕委員会等へ配属することの検討